

## 年々少(2才) 育脳ワークの特徴

◆人間の脳は、**集中力⇒記憶力⇒観察力⇒注意力⇒予測力⇒計算力⇒判断力⇒理解力⇒思考力の順に発達** **すると言われて**います。年々少のこの時期は、主に集中力⇒記憶力⇒観察力が発達する時期ですから、ワークの内容も集中力、記憶力、観察力を育てる課題をたくさん用意しました。

◆この時期の子どもたちは集中力と記憶力が著しく発達します。**集中力をしっかりと鍛えることで、ちゃんと座って親や先生の話が聞けるようになります。話が聞けるようになると理解力も発達**します。また、この時期は目に触れたものの名前や耳にした言葉をどんどん吸収しますから、くだもの、野菜、動物、乗り物の名前をたくさん覚えます。

行動の場が家庭から公園、園、習い事などにどんどん広がります。「社会生活」や「自立」の最初にあたり、あいさつ、自分ですること、危ないこと、やってはいけないことなどを学び、**自立心や道徳心の健全な土壌を育てます。**

### (課題と目的)

集中力を育てるために・・・**線でむすぶ①②③**

記憶力を育てるために・・・**ものの名前①②**

記憶力と観察力を育てるために・・・**なかまさがし①②**  
**点つなぎ**

社会性を育てるために・・・**大きな声であいさつする**  
**良いこと悪いこと**

自立心を育てるために・・・**できること**

◆字が読めない、書けない、なかなか集中してワークに取り組めないお子様でも楽しみながら学べる課題を用意しました。最初は、お子様の横に保護者様が座っていっしょに解き進めてください。これはテストではありません。**「できた、できない」よりも、「解く力」身につけることが大切です。**ゲーム感覚で楽しんで進めてください。できたら、たくさんほめてあげてください。「なぜできないの！こんなの簡単でしょ？」といった叱り方はしないでください。叱ってばかりいたら、間違いなくワーク嫌いになります。

◆この育脳ワークは**世界的な大脳生理学の権威、久保田競先生の監修のもとに作られました。**とりあげられたさまざまな課題は集中力、記憶力、観察力、注意力、予測力、計算力、判断力、理解力、思考力を鍛えて、バランスのとれた脳を育ててくれます。

**久保田競**：京都大学名誉教授、医学博士、脳科学者。東京大学医学部卒業、京都大学霊長類研究所にてサルの前頭葉の構造と機能を研究。同大教授、同大研究所所長を歴任。前頭前野の研究を1970年よりはじめた認知神経科学の世界的権威。2011年春、瑞宝中綬章を受賞。書籍「脳をきたえる おりがみマラソン100(講談社)」等多数。

### えんぴつの正しい持ちかた

写真のように、人差し指と中指と親指で「3点持ち」するのがえんぴつの正しい持ちかたです。最初からこの持ちかたで始めましょう。まだ指に力が入らない幼児期には4Bのような太くてやわらかい芯のえんぴつを使います。小さな手には短いえんぴつか、写真のような半分に切ったえんぴつを使うと良いでしょう。

クレヨンがスラスラ書けてしまうため、ゆっくりとていねいに線を引く課題「線をむすぶ①②③」にはクレヨンは不向きです。



## 年少(3才) 育脳ワークの特徴

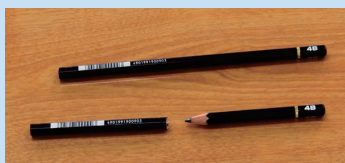
- ◆人間の脳は、**集中力⇒記憶力⇒観察力⇒注意力⇒予測力⇒計算力⇒判断力⇒理解力⇒思考力の順に発達すると言われています**。年少のこの時期は、主に集中力⇒記憶力⇒観察力⇒注意力⇒予測力が発達する時期ですから、ワークの内容も集中力、記憶力、観察力、注意力、予測力を育てる課題をたくさん用意しました。
- ◆年少ワークでは、引き続き集中力や記憶力を育てるとともに、さまざまな課題を通して観察力、注意力、予測力を培います。**また、計算力の基礎となる数の感覚もこの時期から育てます**。
- ◆年々少よりもむずかしい曲線、ギザギザ線などを正確になぞって書くことで、より長い集中力と巧緻性を養います。また、同じ絵を線で結ぶことや、たくさんの似た絵の中から同じ絵を探すことで、集中力と注意力と観察力を育てます。類題がたくさん並ぶのは、繰り返すことで**集中力、記憶力、観察力、注意力、予測力を確実なものにする**ためです。  
行動範囲がさらに広がるこの時期は、**集団の中でのルール、あいさつ、仲よくすること、してはいけないこと、自分でできること、できないこと**をチェックしながらしっかりと学びます。
- ◆字が読めない、書けない、なかなか集中してワークに取り組めないお子様でも楽しみながら学べる課題を用意しました。最初は、お子様の横に保護者様が座っていっしょに解き進めてください。これはテストではありません。**「できた、できない」よりも、「解く力」身につけることが大切です**。ゲーム感覚で楽しんで進めてください。できたら、たくさんほめてあげてください。「なぜできないの！こんな簡単でしょ？」といった叱り方はしないでください。叱ってばかりいたら、間違いなくワーク嫌いになります。

### えんぴつの正しい持ちかた

写真のように、人差し指と中指と親指で「3点持ち」するのがえんぴつの正しい持ちかたです。最初からこの持ち方で始めましょう。

まだ指に力が入らない幼児期には4Bのような太くてやわらかい芯のえんぴつを使います。小さな手には短いえんぴつか、写真のような半分に切ったえ

んぴつを使うと良いでしょう。クレヨンがスラスラ書けるため、ゆっくりとていねいに線を引く課題「線をむすぶ①②③」にはクレヨンは不向きです。



◆この育脳ワークは**世界的な大脳生理学の権威、久保田競先生の監修のもとに作りました。**とりあげられたさまざまな課題は集中力、記憶力、観察力、注意力、予測力、計算力、判断力、理解力、思考力を鍛えて、バランスのとれた脳を育ててくれます。

**(課題と目的)**

- 集中力と記憶力を育てるために・・・線をなぞる なかまを線で結ぶ
- 記憶力と観察力と予測力を育てるために・・・なかま探し①②③ 迷路
- 計算力を育てるために・・・0～10までの数字 数をかぞえる①②  
サイコロ じかん
- 記憶力と観察力を育てるために・・・かくれんぼ
- 自立心を育てるために・・・自分でする
- 社会性と判断力と思考力を育てるために・・・あいさつ いけないこと あぶないこと
- 自然に関心を持つために・・・動物園の生き物 水族館の生き物

- 何をすべきか (理解力)
- どうすればいいか (思考力)
- いつやればいいか (判断力)
- 目的は何か・目的を忘れない (記憶力)
- 実行する (行動力・決断力)
- 最後まで投げない (集中力・持続力)

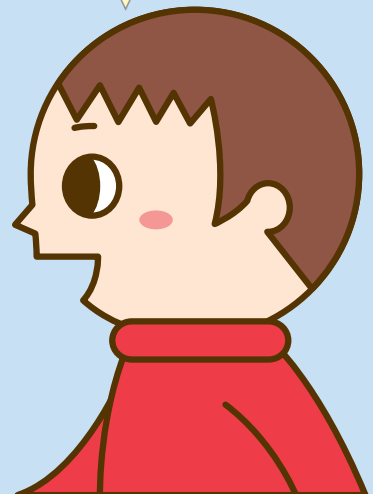


**バランスの良い賢い頭脳を育てます**

人間が賢いのは脳の「前頭前野」と呼ばれる部位が他の動物にくらべて圧倒的に大きいからだといわれています。頭脳の司令塔ともいわれる前頭前野は、理解力、思考力、判断力、計算力、記憶力、行動力、決断力、集中力 など脳のすべ

ての機能を担っています。育脳ワークは大脳生理学の権威、久保田競先生にアドバイスをいただき、5才までに前頭前野バランスよく育てるためのカリキュラムを網羅しました。

**久保田競**：京都大学名誉教授、医学博士、脳科学者。東京大学医学部卒業、京都大学霊長類研究所にてサルの前頭葉の構造と機能を研究。同大教授、同大研究所所長を歴任。前頭前野の研究を1970年よりはじめた認知神経科学の世界的権威。2011年春、瑞宝中綬章を受賞。書籍「脳をきたえる おりがみマラソン100 (講談社)」等多数。



## 年中(4才) 育脳ワークの特徴

- ◆人間の脳は、**集中力⇒記憶力⇒観察力⇒注意力⇒予測力⇒計算力⇒判断力⇒理解力⇒思考力の順に発達すると言われています**。年中のこの時期は、主に観察力⇒注意力⇒予測力⇒計算力が発達する時期ですから、ワークの内容も観察力や計算力を育てる課題をたくさん用意しました。
- ◆年中では、一生、役に立つしっかりとした計算力の基本を育てます。これまでの経験と記憶をもとに判断力や予測する力、想像する力の基礎を作ります。ただ線を引くのではなく、一度見た図を隠して同じ図を書く。こうした高度な練習で記憶力と集中力を完成させます。0から10までをしっかりと覚え、物の数、多い少ない、かぞえ方(こ、ひき、ほん、にん)などを学びます。ふえること、減ることなど、足し算、引き算の基礎を感覚で覚えます。  
友だちといっしょに遊ぶときのルール、してはいけないあぶないこと、たいせつなことを学びます。四季の公園で見る花や生き物を通して季節感を身につけます。

### (課題と目的)

- 計算力と思考力を育てるために・・・積み木 なんばん目 足す
- 記憶力と注意力を育てるために・・・線つなぎ ①②
- 記憶力と観察力と計算力を育てるために・・・数の順番 ①② 数字の迷路
- 社会性と判断力と理解力を育てるために・・・いっしょに遊ぶ あぶないこと たいせつなこと
- 記憶力と観察力と計算力を育てるために・・・ふえる へる 図形
- 自然への関心を育てるために・・・春夏秋冬の公園 春夏秋冬の畑

### えんぴつの正しい持ちかた

写真のように、人差し指と中指と親指で「3点持ち」するのがえんぴつの正しい持ちかたです。最初からこの持ち方で始めましょう。

まだ指に力が入らない幼児期には4Bのような太くてやわらかい芯のえんぴつを使います。小さな手には短いえんぴつか、写真のような半分に切ったえ

んぴつを使うと良いでしょう。クレヨンはスラスラ書けてしまうため、ゆっくりとていねいに線を引く課題「線をむすぶ①②③」にはクレヨンは不向きです。



- ◆字が読めない、書けない、なかなか集中してワークに取り組めないお子様でも楽しみながら学べる課題を用意しました。最初は、お子様の横に保護者様が座っていっしょに解き進めてください。これはテストではありません。「できた、できない」よりも、「解く力」身につけることが大切です。ゲーム感覚で楽しんで進めてください。できたら、たくさんほめてあげてください。「なぜできないの！こんな簡単でしょ？」といった叱り方はしないでください。叱ってばかりいたら、間違いなくワーク嫌いになります。
- ◆この育脳ワークは**世界的な大脳生理学の権威、久保田競先生の監修のもとに作りました。**とりあげられたさまざまな課題は集中力、記憶力、観察力、注意力、予測力、計算力、判断力、理解力、思考力を鍛えて、バランスのとれた脳を育ててくれます。

- 何をすべきか（理解力）
- どうすればいいか（思考力）
- いつやればいいか（判断力）
- 目的は何か・目的を忘れない（記憶力）
- 実行する（行動力・決断力）
- 最後まで投げない（集中力・持続力）

### バランスの良い賢い頭脳を育てます

人間が賢いのは脳の「前頭前野」と呼ばれる部位が他の動物にくらべて圧倒的に大きいからだといわれています。頭脳の司令塔ともいわれる前頭前野は、理解力、思考力、判断力、計算力、記憶力、行動力、決断力、集中力 など脳のすべ

での機能を担っています。育脳ワークは大脳生理学の権威、久保田競先生にアドバイスをいただき、5才までに前頭前野バランスよく育てるためのカリキュラムを網羅しました。

**久保田競**：京都大学名誉教授、医学博士、脳科学者。東京大学医学部卒業、京都大学霊長類研究所にてサルの前頭葉の構造と機能を研究。同大教授、同大研究所所長を歴任。前頭前野の研究を1970年よりはじめた認知神経科学の世界的権威。2011年春、瑞宝中綬章を受賞。書籍「脳をきたえる おりがみラソン100（講談社）」等多数。



## 年長 (5 才) 育脳ワークの特徴

- ◆人間の脳は、**集中力⇒記憶力⇒観察力⇒注意力⇒予測力⇒計算力⇒判断力⇒理解力⇒思考力の順に発達すると言われています。**年長のこの時期は、主に予測力⇒計算力⇒思考力が発達する時期ですから、ワークの内容も予測力、計算力、判断力、理解力、思考力を育てる課題をたくさん用意しました。
- ◆年長では理解力、思考力、高度な計算力を育てる問題に取り組みます。これまでに培ってきた頭脳の働きをさらに鍛え、小学校に入ってもへこたれない、知力、学力、人間力（自立心、協調性、強い気持）、社会性（生活のルール、善悪の理解、リーダーシップ）を身につけます。
- ◆ふたつの図を重ねるとどうなるか？ 回転すると位置がどう変わるか？ 横、上、正面から見たらそれぞれの立体がどう見えるか？ こうしたワークのくり返すことで予測する力、想像する力、考える力を磨きます。たし算、ひき算の基礎から応用まで、1年を通して高度な計算力を身につけます。グループ、友だち間のトラブルや困った事例をもとに、こんなときどうする？と考える練習もします。

### (課題と目的)

- 記憶力と予測力を育てるために・・・重ねる
- 計算力と予測力と思考力を育てるために・・・積み木をかぞえる 迷路
- 理解力と思考力を育てるために・・・シーソー
- 計算力と理解力と思考力を育てるために・・・位置 回転 ①② あといくつ
- 記憶力を育てるために・・・記憶する
- 思考力と予測力を育てるために・・・回転
- 思考力と記憶力と観察力を育てるために・・・かくれんぼ
- 自然に関心を持つために・・・季節の植物 季節の生き物
- 社会性と判断力と理解力と思考力を育てるために・・・自分の考え

### えんぴつの正しい持ちかた

写真のように、人差し指と中指と親指で「3点持ち」するのがえんぴつの正しい持ちかたです。最初からこの持ち方で始めましょう。

まだ 指に力が入らない幼児期には4Bのような太くてやわらかい芯のえんぴつを使います。小さな手には短いえんぴつか、写真のような半分に切ったえ

んぴつを使うと良いでしょう。クレヨンがスラスラ書けてしまうため、ゆっくりとていねいに線を引く課題「線をむすぶ①②③」にはクレヨンは不向きです。



◆字が読めない、書けない、なかなか集中してワークに取り組めないお子様でも楽しみながら学べる課題を用意しました。最初は、お子様の横に保護者様が座っていっしょに解き進めてください。これはテストではありません。「できた、できない」よりも、「解く力」身につけることが大切です。ゲーム感覚で楽しんで進めてください。

できたら、たくさんほめてあげてください。「なぜできないの！こんなの簡単でしょ？」といった叱り方はしないでください。叱ってばかりいたら、間違いなくワーク嫌いになります。

◆この育脳ワークは**世界的な大脳生理学の権威、久保田競先生の監修のもとに作りました。**とりあげられたさまざまな課題は集中力、記憶力、観察力、注意力、予測力、計算力、判断力、理解力、思考力を鍛えて、バランスのとれた脳を育ててくれます。

- 何をすべきか（理解力）
- どうすればいいか（思考力）
- いつやればいいか（判断力）
- 目的は何か・目的を忘れない（記憶力）
- 実行する（行動力・決断力）
- 最後まで投げない（集中力・持続力）

### バランスの良い賢い頭脳を育てます

人間が賢いのは脳の「前頭前野」と呼ばれる部位が他の動物にくらべて圧倒的に大きいからだといわれています。頭脳の司令塔ともいわれる前頭前野は、理解力、思考力、判断力、計算力、記憶力、行動力、決断力、集中力 など脳のすべ

での機能を担っています。育脳ワークは大脳生理学の権威、久保田競先生にアドバイスをいただき、5才までに前頭前野バランスよく育てるためのカリキュラムを網羅しました。

**久保田競**：京都大学名誉教授、医学博士、脳科学者。東京大学医学部卒業、京都大学霊長類研究所にてサルの前頭葉の構造と機能を研究。同大教授、同大研究所所長を歴任。前頭前野の研究を1970年よりはじめた認知神経科学の世界的権威。2011年春、瑞宝中綬章を受賞。書籍「脳をきたえる おりがみマラソン100（講談社）」等多数。

